



WASEDA ROPE

## 平成 28 年度 オリンピック・パラリンピック教育事業 推進校実施報告書

- 1 学校名 : 熊本市立北部東小学校
- 2 実施日時 : 2017 (平成 29) 年 2 月 1 日 (水)
- 3 対象 : 6 年生 (105 名)
- 4 派遣オリンピック : 勅使川原 郁恵さん (ショートトラックスピードスケート 長野 (1998) ・ソルトレイク (2002) ・トリノ (2006) オリンピック 出場)
- 5 授業内容 : 講演+実技指導

2017 (平成 29) 年 2 月 1 日 (水) に、熊本市立北部東小学校にて、6 年生 105 名を対象とし、長野・ソルトレイク五輪のショートトラック競技リレーで 4 位に入賞され、現在はスポーツキャスターや日本各地でウォーキングの指導を行うなど、様々な方面で精力的に活動されている勅使川原郁恵さんにご講演いただきました。

講演の冒頭では、勅使川原さんから児童たちに対する質問形式で進行していきました。その中で、ショートトラックの選手のスピードが時速約 40km であり、陸上選手よりも速いというお話をされた際には、児童たちも大変驚いておりました。

その後、勅使川原さんは、小学生時代の勅使川原さんの 1 日の生活のスケジュールや、競技中に前方を滑っていた選手が転倒し、その選手のスケートの刃が顔に刺さり、14 針を縫う大怪我をしたことなどについてお話をされました。これらのお話から、現役時代の勅使川原さんが、常に「自分に勝つ」という気持ちを持ちながら競技に取り組まれていた様子が窺えました。

講演の後半は、質疑応答の時間が設けられました。質疑応答では、多くの児童が積極的に手を挙げている様子がみられました。

「なぜ怪我をしても競技をやめなかったのか」という児童の質問に対して、勅使川原さんは、何の迷いもなく「スケートが大好きだったから」と答えられました。そして、「好き」という気持ちを持つことが、夢を実現していく上で大切であるというお話をされました。他にも、「なぜ引退後にたくさんの資格を取っているのか」という質問に対しては、「健康」に関わる資格を多く取得することで、自身のウォーキング指導に活かしていくためであると答えられました。競技生活を引退されても、新たな夢の実現に向けて走り続けている勅使川原さんの姿から学ぼうと、児童たちは真剣に勅使川原さんのお話を聞いていました。

事後アンケートでは、「人に勝とうじゃなくて、自分に勝とうという気持ちは私にはなかったので、そのようなことをいかしたいと思います」、「実際にオリンピックを見に行くのは少し難しいけれど、せめて、テレビで応援しようと思います」、「オリンピックに出ている方々のがんばっている姿を見て学んでいこうと思いました」、「はじめは、オリンピックにはぜんぜん興味がなかったけど、今日、お話を聞いて、テレビで見ようと思った」、「スピードスケートショートトラックについて調べてみたいと思いました」といった記述がみられました。多くの児童にとって、勅使川原さんのお話は、オリンピック・

パラリンピックをはじめとするスポーツの価値について考えるきっかけになったようです。

## 6 授業の様子



ショートトラックについて説明する勅使川原さん



質疑応答の際、積極的に挙手する児童たち



勅使川原さんに質問する児童



勅使川原さんにお礼の言葉を述べる児童



講演後勅使川原さんを囲んでの集合写真